校異源氏物語・をとめ

としかはりて宮の御はてもすきぬれは世中いろあらたまりてころもかへのほとなともいまめかしきをましてまつりのころはおほかたの空のけしき心ちよけなるに前さい院はつれ　くとなかめ給をまへなるかつらのしたかせなつかしきにつけてもわかき人　くはおもひいつることゝもあるに大殿よりみそきの日はいかにのとやかにおほさるらむとゝふらひきこえさせ給へりけふは

　かけきやはかはせのなみもたちかへり君かみそきのふちのやつれをむらさきのかみたてふみすくよかにてふちの花につけ給へりおりのあはれなれは御返あり

　ふちころもきしはきのふと思ふまにけふはみそきのせにかはる世をはかなくとはかりあるをれいの御めとめ給てみをはす御ふくなをしのほとなとにもせんしのもとに所せきまておほしやれることゝもあるを院はみくるしきことにおほしの給へとをかしやかにけしきはめる御ふみなとのあらはこそとかくもきこえかへさめとしころもおほやけさまのおり　くの御とふらひなとはきこえならはし給ていとまめやかなれはいかゝはきこえもまきらかすへからむともてわつらふへし女五宮の御かたにもかやうにおりすくさすきこえ給へはいとあはれにこの君のきのふけふのちこと思ひしをかくおとなひてとふらひ給ふことかたちのいともきよらなるにそへて心さへこそ人にはことにおひいて給へれとほめきこえ給をわかき人　くはわらひきこゆこなたにもたいめんし給おりはこのおとゝのかくいとねんころにきこえ給めるをなにかいまはしめたる御心さしにもあらすこ宮もすちことになり給てえみたてまつり給はぬなけきをし給てはおもひたちしことをあなかちにもてはなれ給しことなとの給ひいてつゝくやしけにこそおほしたりしおり　くありしかされとこ大殿のひめ君ものせられしかきりは三宮の思ひ給はむことのいとをしさにとかく事そへきこゆることもなかりしなりいまはそのやむことなくえさらぬすちにてものせられし人さへなくなられにしかはけになとてかはさやうにておはせましもあしかるましとうちおほえ侍にもさらかへりてかくねんころにきこえ給もさるへきにもあらんとなむ思ひ侍なといとこたいにきこえ給を心つきなしとおほしてこ宮にもしか心こはきものに

おもはれたてまつりてすき侍にしをいまさらにまた世になひきはへらんもいとつきなきことになむときこえ給てはつかしけなる御けしきなれはしゐてもえきこえおもむけ給はす宮人もかみしもみな心かけきこえたれは世中いとうしろめたくのみおほさるれとかの御身つからは我心をつくしあはれをみえきこえて人の御けしきのうちもゆるはむほとをこそまちわたり給へさやうにあなかちなるさまに御心やふりきこえんなとはおほさゝるへし大殿はらのわか君の御けんふくのことおほしいそくを二条の院にてとおほせと大宮のいとゆかしけにおほしたるもことはりに心くるしけれはなをやかてかの殿にてせさせたてまつり給右大将をはしめきこえて御をちの殿はらみなかむたちめのやむことなき御おほえことにてのみものし給へはあるしかたにも我も　くとさるへきことゝもはとり　くにつかうまつり給おほかた世ゆすりて所せき御いそきのいきおひなり四ゐになしてんとおほし世人もさそあらんとおもへるをまたいときひはなるほとをわか心にまかせたる世にてしかゆくりなからんも中　くめなれたることなりとおほしとゝめつあさきにて殿上にかへり給を大宮はあかすあさましきことゝおほしたるそことはりにいとをしかりける御たいめんありてこの事きこえ給にたゝいまかうあなかちにしもまたきにをいつかすましう侍れと思ふやう侍て大かくのみちにしはしならはさむのほい侍によりいま二三年をいたつらのとしに思ひなしてをのつからおほやけにもつかうまつりぬへきほとにならはいま人となり侍なむ身つからはこゝのへのうちにおいゝて侍て世中のありさまもしり侍らすよるひる御前にさふらひてわつかになむはかなきふみなともならひ侍したゝかしこき御てよりつたへ侍したになにこともひろき心をしらぬほとはふみのさへをまねふにもことふゑのしらへにもねたえすをよはぬ所のおほくなむ侍けるはかなきおやにかしこき子のまさるためしはいとかたきことになむ侍れはましてつき　くつたはりつゝへたゝりゆかむほとの行さきいとうしろめたなきによりなむ思ひ給へをきて侍たかきいへの子としてつかさかうふり心にかなひ世のなかさかりにをこりならひぬれはかくもむなとに身をくるしめむことはいとゝをくなむおほゆへかめるたはふれあそひをこのみて心のまゝなる官爵にのほりぬれはときにしたかふ世人のしたにはゝなましろきをしつゝついせうしけしきとりつゝしたかふほとはをのつから人とおほえてやむことなきやうなれとときうつりさるへき人にたちをくれて世おとろふるすゑには人にかるめあなつらるゝにとるところなきことになむ侍なをさえをもとゝしてこそやまとたましひの世にもちゐらるゝかたもつよう侍らめさしあたりては心もとなきやうに侍れと

もつゐの世のおもしとなるへき心をきてをならひなは侍らすなりなむのちもうしろやすかるへきによりなむたゝいまははか　くしからすなからもかくてはくゝみ侍らはせまりたる大かくのしうとてわらひあなつる人もよも侍らしと思ふ給ふるなときこえしらせ給へはうちなけき給てけにかくもおほしよるへかりけることをこの大将なともあまりひきたかへたる御ことなりとかたふけはへるめるをこのおさな心ちにもいとくちおしく大将左衛門督の子ともなとをわれよりは下らうとおもひおとしたりしたにみなをの　くかゝいしのほりつゝおよすけあへるにあさきをいとからしとおもはれたるに心くるしく侍なりときこえ給へはうちわらひ給ていとおよすけてもうらみ侍なゝりないとはかなしやこの人のほとよとていとうつくしとおほしたりかくもんなとしてすこしものゝ心え侍らはそのうらみはをのつからとけ侍なんときこえ給あさなつくることはひむかしの院にてしたまふひんかしのたいをしつらはれたりかむたちめ殿上人めつらしくいふかしきことにして我も　くとつとひまいり給へりはかせともゝ中　くおくしぬへしはゝかる所なくれいあらむにまかせてなたむる事なくきひしうをこなへとおほせ給へはしいてつれなく思ひなしていへよりほかにもとめたるそうそくとものうちあはすかたくなしきすかたなとをもはちなくおもゝちこはつかひむへ　くしくもてなしつゝ座につきならひたるさほうよりはしめみもしらぬさまともなりわかきゝんたちはえたへすほうゑまれぬさるはものわらひなとすましくすくしつゝしつまれるかきりをとえりいたしてへいしなともとらせ給へるにすちことなりけるましらひにて右大将民部卿なとのおほな　くかはらけとり給へるをあさましくとかめいてつゝをろすおほしかいもとあるしはなはたひさうに侍りたうふかくはかりのしるしとあるなにかしをしらすしてやおほやけにはつかうまつりたうふはなはたおこなりなといふに人ゝみなほころひてわらひぬれはまたなりたかしなりやまむはなはたひさう也さをひきてたちたうひなんなとをとしいふもいとおかしみならひ給はぬ人ゝはめつらしくけうありとおもひこのみちよりいてたち給へるかむたちめなとはしたりかほにうちほゝゑみなとしつゝかゝるかたさまをおほしこのみて心さし給かめてたきことゝいとゝかきりなくおもひきこえ給へりいさゝかものいふをもせいすなめけなりとてもとかむかしかましうのゝしりをるかほともゝ夜にいりては中　くいますこしけちえんなるほかけにさるかうかましくわひしけに人わるけなるなとさま　くにけにいとなへてならすさまことなるわさなりけりおとゝはいとあされかたくなゝる身にてけうさうしまとはかされなんとの給てみすのうちにかくれてそ御

らむしけるかすさたまれる座につきあまりてかへりまかつる大かくのしうともあるをきこしめしてつり殿のかたにめしとゝめてことにものなとたまはせけりことはてゝまかつるはかせさい人ともめしてまた　くふみつくらせ給かむたちめ殿上人もさるへきかきりをはみなとゝめさふらはせ給はかせの人　くは四ゐんたゝの人はおとゝをはしめたてまつりて絶句つくり給興ある題のもしえりて文章博士たてまつるみしかきころの夜なれはあけはてゝそかうする左中弁かうしつかうまつるかたちいときよけなる人のこはつかひもの　くしく神さひてよみあけたるほとおもしろしおほえ心ことなるはかせなりけりかゝるたかきいゑにむまれ給てせかいのゑい花にのみたはふれ給へき御身をもちてまとのほたるをむつひえたの雪をならし給心さしのすくれたるよしをよろつのことによそへなすらへて心　くにつくりあつめたるくことにおもしろくもろこしにももてわたりつたへまほしけなる夜のふみともなりとなむそのころ世にめてゆすりけるおとゝの御はさらなりおやめきあはれなることさへすくれたるを涙おとしてすしさわきしかと女のえしらぬことまねふはにくきことをとうたてあれはもらしつうちつゝきにうかくといふことせさせ給てやかてこの院の内に御さうしつくりてまめやかにさえふかき師にあつけきこえ給てそかくもんせさせたてまつり給ける大宮の御もとにもおさ　くまうて給はすよるひるうつくしみてなをちこのやうにのみもてなしきこえ給へれはかしこにてはえものならひ給はしとてしつかなる所にこめたてまつり給へるなりけり一月に三たひはかりをまいり給へとそゆるしきこえ給けるつとこもりゐ給ていふせきまゝに殿をつらくもおはしますかなかくくるしからてもたかきくらゐにのほり世にもちゐらるゝ人はなくやはあると思きこえ給へとおほかたの人からまめやかにあためきたる所なくおはすれはいとよくねんしていかてさるへきふみともとくよみはてゝましらひもし世にもいてたらんと思てたゝ四五月のうちに史記なといふふみよみはて給てけりいまは寮試うけさせむとてまつ我御まへにて心みさせ給れいの大将左大弁式部大輔左中弁なとはかりして御師の大内記をめして史記のかたきまき　くれうしうけんにはかせのかへさふへきふし　くをひきいてゝひとわたりよませたてまつり給にいたらぬくもなくかた　くにかよはしよみ給へるさまつましるしのこらすあさましきまてありかたけれはさるへきにこそおはしけれとたれも

　く涙おとし給大将はましてこおとゝおはせましかはときこえいてゝなき給殿もえ心つようもてなし給はす人のうへにてかたくなゝりとみきゝ侍しを子のおとなふるにおやのたちかはりしれゆくことはいくはくならぬよはひなからかゝ

る世にこそ侍けれなとの給ひてをしのこひ給をみる御師の心ちうれしくめいほくありとおもへり大将さかつきさし給へはいたうゑいしれておるかほつきいとやせ　くなり世のひかものにてさえのほとよりはもちゐられすゝけなくて身まつしくなむありけるを御らんしうる所ありてかくとりわきめしよせたるなりけり身にあまるまて御かへりみを給りてこの君の御とくにたちまちに身をかへたると思へはましてゆくさきはならふ人なきおほえにそあらんかし大かくにまいり給日はれうもんにかむたちめの御くるまともかすしらすつとひたりおほかた世にのこりたるあらしとみえたるに又なくもてかしつかれてつくろはれいり給へるくわさの君の御さまけにかゝるましらひにはたへすあてにうつくしけなりれいのあやしきものとものたちましりつゝきいたる座のすゑをからしとおほすそいとことはりなるやこゝにてもまたおろしのゝしるものともありてめさましけれとすこしもおくせすよみはて給つむかしおほえて大かくのさかゆるころなれはかみなかしもの人我も　くとこのみちに心さしあつまれはいよ　く世のなかにさえありはか　くしき人おほくなんありける文人擬生なといふなる事ともよりうちはしめすか　くしうはて給へれはひとへに心にいれて師もてしもいとゝはけみまし給殿にもふみつくりしけくはかせさい人ともところえたりすへてなに事につけてもみち　くの人のさえのほとあらはるゝ世になむありけるかくてきさきゐ給へきを斎宮女御をこそはゝは宮もうしろみとゆつりきこえ給しかはとおとゝもことつけ給源氏のうちしきりきさきにゐ給はんこと世の人ゆるしきこえすこうきてんのまつ人よりさきにまいり給にしもいかゝなとうち　くにこなたかなたに心よせきこゆる人　くおほつかなかりきこゆ兵部卿宮ときこえしはいまは式部卿にてこの御時にはましてやんことなき御おほえにておはする御むすめほいありてまいり給へりおなしこと王女御にてさふらひ給をおなしくは御はゝかたにてしたしくおはすへきにこそははゝきさきのをはしまさぬ御かはりのうしろみにとことよせてにつかはしかるへくとり　くにおほしあらそひたれとなをむめつほゐ給ぬ御さいはひのかくひきかへすくれ給へりけるを世の人おとろききこゆおとゝ太政大臣にあかり給て大将内大臣になり給ぬよのなかのことゝもまつりこち給へくゆつりきこえ給人からいとすくよかにきら　くしくて心もちゐなともかしこくものしたまふかくもんをたてゝし給けれはゐんふたきにはまけ給しかとおほやけことにかしこくなむはら　くに御ことも十よ人おとなひつゝものし給ふもつき　くになりいてつゝおとらすさかへたる御いゑのうちなり女は女御といまひと所なむおはしけるわかんとをりはらにてあてな

るすちはおとるましけれとそのはゝ君あせちの大納言の北方になりてさしむかへる子とものかすおほくなりてそれにませてのちのおやにゆつらむいとあいなしとてとりはなちきこえ給ひて大宮にそあつけきこえ給へりける女御にはこよなく思おとしきこえ給つれと人からかたちなといとうつくしくそおはしける冠者の君ひとつにておひいて給しかとをの　くとおにあまり給てのちは御かたことにてむつましき人なれとおのこゝにはうちとくましき物なりとちゝおとゝきこえ給てけとをくなりにたるをおさな心ちに思ふことなきにしもあらねははかなき花もみちにつけてもひゝなあそひのついせうをもねんころにまつはれありきて心さしをみえきこえ給へはいみしうおもひかはしてけさやかにはいまもはちきこえたまはす御うしろみともゝなにかはわかき御心とちなれはとしころみならひ給へる御あはひをにわかにもいかゝはもてはなれはしたなめはきこえんとみるに女君こそなに心なくおはすれとおとこはさこそものけなきほとゝみきこゆれおほけなくいかなる御なからひにかありけんよそ　くになりてはこれをそしつ心なくおもふへきまたかたおいなるてのおいさきうつくしきにてかきかはしたまへるふみともの心おさなくてをのつからおちゝるおりあるを御かたの人　くはほの　くしれるもありけれとなにかはかくこそとたれにもきこえんみかくしつゝあるなるへしところ　くの大きやうともゝはてゝ世中の御いそきもなくのとやかになりぬるころしくれうちしておきのうは風もたゝならぬ夕くれに大宮の御かたにうちのおとゝまいり給てひめ君わたしきこえ給て御ことなとひかせたてまつり給宮はよろつのものゝ上すにおはすれはいつれもつたへたてまつり給ひはこそ女のしたるににくきやうなれとらう　くしきものに侍れいまの世にまことしうつたへたる人おさ　く侍らすなりにたりなにのみこくれの源氏なとかそへ給て女のなかにはおほきおとゝの山さとにこめをき給へる人こそいと上手ときゝ侍れものゝ上すのゝちに侍れとするになりて山かつにてとしへたる人のいかてさしもひきすくれけんかのおとゝいと心ことにこそ思ひてのたまふおり　く侍れこと事よりはあそひのかたのさえはなをひろうあはせかれこれにかよはし侍こそかしこけれひとりことにて上すとなりけんこそめつらしきことなれなとのたまひて宮にそゝのかしきこえ給へはちうさすことうゐ　くしくなりにけりやとの給へとおもしろうひきたまふさいはひにうちそへて猶あやしうめてたかりける人なりやおいのよにもたまつらぬ女こをまうけさせたてまつりてみにそへてもやつしゐたらすやむことなきにゆつれる心おきてことなかるへき人なりとそきゝ侍なとかつ御ものかたりきこえ給女はたゝ心はせより

こそ世にもちゐらるゝ物に侍けれなと人のうへのたまひゐてゝ女御をけしうはあらすなに事も人におとりてはおひいてすかしと思給しかと思はぬひとにをされぬるすくせになん世はおもひのほかなるものとおもひ侍ぬるこの君をたにいかて思ふさまにみなし侍らんとう宮の御けんふくたゝいまのことになりぬるをと人しれす思ふ給へ心さしたるをかういふさいわい人のはらのきさきかねこそ又をひすきぬれたちいて給へらんにましてきしろふ人ありかたくやとうちなけき給へはなとかさしもあらむこのいゑにさるすちの人いてものし給はてやむやうあらしとこおとゝのおもひ給て女御の御ことをもゐたちいそき給しものをおはせましかはかくもてひかむることもなからましなとこの御ことにてそおほきおとゝもうらめしけにおもひきこえたまへるひめ君の御さまのいときひはにうつくしうてさうの御ことひき給を御くしのさかりかむさしなとのあてになまめかしきをうちまもり給へはゝちらひてすこしそはみ給へるかたはらめつらつきうつくしけにてとりゆのてつきいみしうつくりたるものゝ心ちするを宮もかきりなくかなしとおほしたりかきあはせなとひきすさひ給ておしやり給つおとゝわこむひきよせ給てりちのしらへのなかなかいまめきたるをさる上すのみたれてかいひき給へるいとおもしろしおまへの木するゑほろ　くとのこらぬにおいこたちなとこゝかしこの御木丁のうしろにかしらをつとへたり風のちからけたしすくなしとうちすし給て琴のかむならねとあやしくものあはれなる夕かな猶あそはさんやとて秋風楽にかきあはせてさうかし給へるこゑいとおもしろけれはみなさま　くおとゝをもいとうつくしとおもひきこえ給にいとゝそへむとにやあらむ冠者の君まいり給へりこなたにとて御木丁へたてゝいれたてまつり給へりおさ　くたいめむもえたまはらぬかなゝとかくこの御かくもんのあなかちならんさえのほとよりあまりすきぬるもあちきなきわさとおとゝもおほししれることなるをかくをきてきこえ給やうあらんとは思たまへなからかうこもりおはすることなむ心くるしう侍ときこえ給てとき　くはことわさし給へふゑのねにもふることはつたはるものなりとて御ふゑたてまつり給いとわかうおかしけなるねにふきたてゝいみしうおもしろけれは御ことゝもをはしはしとゝめておとゝはうしおとろ　くしからすうちならし給てはきか花すりなとうたひ給大殿もかやうの御あそひに心とゝめ給ていそかしき御まつりことゝもをはのかれ給なりけりけにあちきなきよに心のゆくわさをしてこそすくし侍なまほしけれなとの給て御かはらけまいり給にくらうなれは御となふらまいり御ゆつけくたものなとたれも　くきこしめす姫君はあなたにわたしたてまつり給つしいてけとを

くもてなし給ひ御ことのねはかりをもきかせたてまつらしといまはこよなくへたてきこえ給をいとをしきことありぬへき世なるこそとちかうつかうまつる大宮の御かたのねひ人ともさゝめきけりおとゝいて給ぬるやうにてしのひて人にものゝたまふとてたち給へりけるをやおらかいほそりていて給みちにかゝるさゝめきことをするにあやしうなり給て御みゝとゝめ給へはわか御うへをそいふかしこかり給へと人のおやよをのつからおれたるこことこそいてくへかめれ子をしるといふはそら事なめりなとそつきしろふあさましくもあるかなされはよおもひよらぬことにはあらねといははけなきほとにうちたゆみて世はうき物にもありけるかなとけしきをつふ　くと心え給へとをともせていて給ぬ御さきをふこゑのいかめしきにそ殿はいまこそいてさせ給けれいつれのくまにおはしましつらんいまさへかゝるあたけこそといひあへりさゝめきことの人　くはいとかうはしきかのうちそよめきいてつるは火さの君のおはしつるとこそ思ひつれあなむくつけやしりうことやほのきこしめしつらんわつらはしき御心をとわひあへり殿はみちすからおほすにいとくちおしくあしきことにはあらねとめつらしけなきあはひに世人も思いふへきことおとゝのしゐて女御をゝししつめ賜もつらきにわくらはに人にまさる事もやとこそ思ひつれねたくもあるかなとおほす殿の御なかのおほかたにはむかしもいまもいとよくおはしなからかやうのかたにてはいとみきこえ給ひしなこりもおほしいてゝ心うけれはねさめかちにてあかし給大宮をもさやうのけしきには御らんすらんものをよになくかなしくし賜御むまこにてまかせてみたまふならんと人　くのいひしけしきをねたしとおほすに御心うこきてすこしをゝしくあさやきたる御心にはしつめかたし二日はかりありてまいり給へりしきりにまいり給ときは大宮もいと御心ゆきうれしきものにおほゐたり御あまひたいひきつくろひうるはしき御こうちきなとたてまつりそへてこなからはつかしけにおはする御人さまなれはまおならすそみえたてまつり給おとゝ御けしきあしくてこゝにさふらふもはしたなく人ゝいかにみ侍らんと心をかれにたりはか　くしきみにはへらねと世に侍らんかきり御めかれす御らんせられおほつかなきへたてなくとこそ思ひ給ふれよからぬものゝうへにてうらめしと思ひきこえさせつへきことのいてまうてきたるをかうも思ふ給へしとかつはおもひ給れとなをしつめかたくおほえ侍てなんと涙をしのこひ給に宮けさうし給える御かほの色たかひて御めもおほきになりぬいかやうなることにてかいまさらのよはひのするゐに心をきてはおほさるらんときこえ給もさすかにいとおしけれとたのもしき御かけにおさなきものをたてまつりをきて身つか

らをは中　くおさなくよりみたまへもつかすまつめにちかきかましらひなとはか　くしからぬをみたまえなけきいとなみつゝさりとも人となさせ給てんとたのみわたり侍つるにおもはすなることの侍けれはいとくちをしうなんまことにあめのしたならふ人なきいうそくにはものせらるめれとしたしきほとにかゝるは人のきゝおもふところもあはつけきやうになむなにはかりのほとにもあらぬなからひにたにし侍るをかの人の御ためにもいとかたはなることなりさしはなれきら　くしうめつらしけあるあたりにいまめかしうもてなさるゝこそおかしけれゆかりむつひねちけかましきさまにておとゝもきゝおほすところ侍なんさるにてもかゝることなんとしらせ給てことさらにもてなしすこしゆかしけあることをませてこそ侍らめおさなき人〻の心にまかせて御らんしはなちけるを心うく思ふ給ふなときこえ給にゆめにもしり給はぬことなれはあさましうおほしてけにかうの給もことはりなれとかけてもこの人　くのしたの心なんしり侍らさりけるけにいとくちをしきことはこゝにこそましてなけくへく侍れもろともにつみをおほせ給はうらめしきことになんみたてまつりしより心ことに思ひ侍てそこにおほしいたらぬことをもすくれたるさまにもてなさむとこそ人しれす思ひ侍れものけなき程を心のやみにまとひていそきものせんとはおもひよらぬことになんさてもたれかはかゝることはきこえけんよからぬよの人のことにつきてきはたけくおほしの給もあちきなくむなしきことにて人の御なやけかれんとのたまへはなにのうきたる事にか侍らんさふらふめる人　くもかつはみなもときわらふへかめるものをいとくちをしくやすからす思ふたまへらるゝやとてたち給ぬ心しれるとちはいみしういとおしくおもふ一夜のしりうことの人

　くはまして心ちもたかひてなにゝかゝるむつものかたりをしけんと思なけきあへり姫君はなに心もなくておはするにさしのそき給へれはいとらうたけなる御さまをあはれにみたてまつり給わかき人といひなから心おさなくものし給けるをしらていとかく人なみ　くに思ける我こそまさりてはかなかりけれとて御めのとゝもをさいなみたまふにきこえんかたなしかやうの事はかきりなきみかとの御いつきむすめもをのつからあやまつためしむかし物かたりにもあめれとけしきをしりつたふる人さるへきひまにてこそあらめこれはあけくれたちまし り給てとしころをはしましつるをなにかはいはけなき御ほとを宮の御もてなしよりさしすくしてもへたてきこえさせんとうちとけてすくしきこえつるをおととしはかりよりはけさやかなる御もてなしになりにて侍めるにわかき人とてもうちまきれはみいかにそやよつきたる人もおはすへかめるを夢にみたれたる所

おはしまさゝめれはさらに思よらさりけることゝをのかとちなけくよししはしかゝることもらさしかくれあるましきことなれと心をやりてあらぬことゝたにいひなされよいまかしこにわたしたてまつりてん宮の御心のいとつらきなりそこたちはさりともいとかゝれとしもおもはれさりけんとの給へはいとおしきなかにもうれしくの給と思ひてあないみしや大納言殿にきゝ給はんことをさへ思ひ侍れはめてたきにてもたゝ人のすちはなにのめつらしさにか思ひたまへかけんときこゆ姫君はいとおさなけなる御さまにてよろつに申給へともかひあるへきにもあらねはうちなき給ていかにしてかいたつらになり給ましきわさはすへからんとしのひてさるへきとちの給て大宮をのみそうらみきこえ給宮はいと

くおしとおほすなかにもおとこ君の御かなしさはすくれ給にやあらんかゝる心のありけるもうつくしうおほさるゝになさけなくこよなきことのやうにおほしのたまへるをなとかさしもあるへきもとよりいたう思つき給ことなくてかくまてかしつかんともおほしたゝさりしをわかゝくもてなしそめたれはこそ春宮の御ことをもおほしかけためれとりはつしてたゝ人のすくせあらはこの君よりほかにまさるへき人やはあるかたちありさまよりはしめてひとしき人のあるへきかはこれよりおよひなからんきはにもとこそおもへと我心さしのまされはにやおとゝをうらめしう思きこえ給御心のうちをみせたてまつりたらはましていかにうらみきこえ給はんかくさはかるらんともしらてくわさの君まいり給へり一夜も人めしけうて思ふことをもえきこえすなりにしかはつねよりもあはれにおほえ給けれは夕つかたおはしたるなるへし宮れいはせひしらすうちゑみてまちよろこひきこえ給をまめたちて物かたりなときこえ給ついてに御ことにより内のおとゝのえんしてものし給にしかはいとなんいとおしきゆかしけなきことをしも思そめ給て人にものおもはせ給つへきか心くるしきことかうもきこえしと思へとさる心もしり給はてやとおもへはなんときこえ給へは心にかゝれることのすちなれはふと思ひよりぬおもてあかみてなに事にか侍らんしつかなる所にこもり侍にしのちともかくも人にましるおりなけれはうらみ給へきこと侍らしとなん思たまふるとていとはつかしと思へるけしきをあはれに心くるしうてよしいまよりたにようい し給へとはかりにてこと　くにいひなし給ふついとゝふみなともかよはんことのかたきなめりと思ふにいとなけかしうものまいりなとし給へとさらにまいらてねたまひぬるやうなれと心も空にて人しつまる程になかさうしをひけとれいはことにさしかためなともせぬをつとさして人のをともせすいと心ほそくおほえてさうしによりかゝりてゐたまへるに女君もめをさ

まして風のをとのたけにまちとられてうちそよめくにかりのなきわたるこゑの
ほのかにきこゆるにおさなき心ちにもとかくおほしみたるゝにや雲井のかりも
我ことやとひとりこち給ふけはひわかうらうたけなりいみしう心もとなけれは
これあけさせ給へ小侍従やさふらふとの給へとをともせす御めのとこなりけり
ひとりことをきゝ給けるもはつかしうてあいなく御かほもひきいれ給へとあは
れはしらぬにしもあらぬそにくきやめのとたちなとちかくふしてうちみしろく
もくるしけれはかたみにをともせす

さ夜中にともよひわたるかりかねにうたてふきそふ荻のうはかせ身にしみ
けるかなとおもひつゝけて宮のおまへにかへりてなけきかちなるも御めさめて
やきかせ給らんとつゝましくみしろきふし給へりあいなく物はつかしうてわか
御かたにとくいてゝ御ふみかき給へれとこしゝうもえあい給はすかの御かたさ
まにもえいかすむねつふれておほえ給女はたさはかれ給しことのみはつかしう
て我身やいかゝあらむ人やいかゝおもはんともふかくおほしいれすおかしうら
うたけにてうちかたらふさまなとをうとましとも思はなれ給はさりけり又かう
さはかるへきこととともおほさゝりけるを御うしろみともゝいみしうあはめきこ
ゆれはえこともかよはし給はすおとなひたる人やさるへきひまをもつくりいつ
らむおとこ君もいますこし物はかなきとしのほとにてたゝいとくちおしとのみ
思ふおとゝはそのまゝにまいりたまはす宮をいとつらしとおもひきこえ給北の
方にはかゝる事なんとけしきもみせたてまつり給はすたゝおほかたいとむつか
しき御けしきにて中宮のよそおひことにてまいり給へるに女御の世中おもひし
めりてものし給を心くるしうむねいたきにまかてさせたてまつりて心やすくう
ちやすませたてまつらんさすかにうへにつとさふらはせ給てよるひるおはしま
すめれはある人ゝも心ゆるゐせすくるしうのみわふめるにとの給てにはかにま
かてさせたてまつり給御いとまもゆるされかたきをうちむつかりたまてうへは
しふ　くにおほしめしたるをしゐて御むかへし給つれ　くにおほされんをひめ
君わたしてもろともにあそひなとし給へ宮にあつけたてまつりたるうしろやす
けれといとさくしりおよすけたる人たちましりてをのつからけちかきもあいな
きほとになりにたれはなんときこえ給てにはかにわたしきこえ給宮いとあへな
しとおほしてひとりものせられし女なくなり給てのちいとさうさうしく心ほそ
かりしにうれしうこの君をえていけるかきりのかしつきものと思ひてあけくれ
につけておいのむつかしさもなくさめんとこそおもひつれおもひのほかにへた
てありておほしなすもつらくなときこえたまへはうちかしこまりて心にあかす

おもふたまへらるゝ事はしかなんおもふたまへらるゝとはかりきこえさせしになむふかくへたて思たまふることはいかてか侍らむうちにさふらふか世の中うらめしけにてこの頃まかてゝ侍るにいとつれ　くにおもひてくし侍れは心くるしうみ給ふるをもろともにあそひわさをもしてなくさめよとおもふたまへてなむあからさまにものし侍とてはくくみ人となさせたまへるをゝろかにはよも思ひきこえさせしと申給へはかうおほしたちにたれはとゝめきこえさせ給ふともおほしかへすへき御心ならぬにいとあかすくちおしうおほされて人の心こそうきものはあれとかくをさなき心ともにも我にへたてゝうとましかりけることよ又さもこそあらめおとゝのものゝ心をふかうしり給なからわれをえんしてかくゐてわたしたまふことかしこにてこれよりうしろやすきこともあらしとうちなきつゝの給おりしもくわさの君まいり給へりもしいさゝかのひまもやとこのころはしけうほのめき給なりけり内のおとゝの御くるまのあれは心のおにゝはしたなくてやをらかくれて我御かたにいりゐ給へり内の大とのゝきんたち左少将少納言兵衛佐侍従たいふなといふもみなこゝにはまいりつとひたれとみすのうちはゆるしたまはす左兵衛督権中納言なともこと御はらなれと故殿の御もてなしのまゝにいまもまいりつかうまつり給ことねんころなれはその御こともゝさま　くまいり給へとこの君にゝるにほひなくみゆ大宮の御心さしもなすらひなくおほしたるをたゝこのひめ君をそけちかうらうたきものとおほしかしつきて御かたはらさけすうつくしきものにおほしたりつるをかくてわたり給なんかいとさう　くしきことをおほすとのはいまのほとにうちにまいり侍りて夕つかたむかへにまいり侍らんとていて給ぬいふかひなきことをなたらかにいひなしてさてもやあらましとおほせと猶いと心やましけれは人の御程のすこしもの　くしくなりなんにかたはならすみなしてその程心さしのふかさあさゝのおもむきをもみさためてゆるすともことさらなるやうにもてなしてこそあらめせいしいさむともひと所にてはおさなき心のまゝにみくるしうこそあらめ宮もよもあなかちにせいし給ことあらしとおほせは女御の御つれ　くにことつけてこゝにもかしこにもおいらかにいひなしてわたし給なりけり宮の御ふみにておとゝこそうらみもしたまはめ君はさりとも心さしのほともしり給らんわたりてみえ給へときこえたまへれはいとをかしけにひきつくろひてわたり給へり十四になんおはしけるかたなりにみえ給へといとこめかしうしめやかにうつくしきさまし給へりかたはらさけたてまつらすあけくれのもてあそひものに思ひきこえつるをいとさうさうしくもあるへきかなのこりすくなきよはひのほとにて御ありさま

をみはつましきことゝいのちをこそ思ひつれいま更にみすてゝうつろひ給やいつちならむとおもへはいとこそあはれなれとてなきたまふひめ君はゝつかしきことをおほせはかほもゝたけ給はてたゝなきにのみなき給おとこ君の御めのとさい将の君いてきておなしきみとこそたのみきこえさせつれくちおしくかくわたらせ給こと殿はことさまにおほしなることおはしますともさやうにおほしなひかせ給ななとさゝめききこゆれはいよ　くはつかしとおほしてものもの給はすいてむつかしきことなききこえられそ人の御すくせすくせいとさためかたくとの給ふいてやものけなしとあなつりきこえさせ給に侍めりかしさりともけにわか君人におとりきこえさせ給ときこしめしあはせよとなま心やましきまゝにいふくわさの君ものゝうしろにいりゐてみ給に人のとかめむもよろしき時こそくるしかりけれいと心ほそくてなみたおしのこひつゝおはするけしきを御めのといと心くるしうみて宮にとかくきこえたはかりて夕まくれの人のまよひにたいめむせさせ給へりかたみにものはつかしくむねつふれてものもいはてなき給おとゝの御心のいとつらけれはさはれ思ひやみなんとおもへとこひしうおはせむこそわりなかるへけれなとてすこしひまありぬへかりつるひころよそにへたてつらむとの給さまもいとわかうあはれけなれはまろもさこそはあらめとの給恋しとはおほしなんやとの給へはすこしうなつき給さまもおさなけなり御となふらまいり殿まかて給けはひこちたくをひのゝしる御さきのこゑに人〻そゝやなとをちさはけはいとおそろしとおほしてわなゝき給さもさはかれはとひたふる心にゆるしきこえ給はす御めのとまいりてもとめたてまつるにけしきをみてあな心つきなやけに宮しらせ給はぬ事にはあらさりけりとおもふにいとつらくいてやうかりけるよかなとのゝおほしの給事はさらにもきこえす大納言殿にもいかにきかせ給はんめてたくともものゝはしめの六位すくせよとつふやくもほのきこゆたゝこのひやうふのうしろにたつねきてなけくなりけりおとこ君我をはくらゐなしとてはしたなむるなりけりとおほすに世の中うらめしけれはあはれもすこしさむる心地してめさましかれきゝたまへ

　くれなゐのなみたにふかき袖の色をあさみとりにやいひしほるへきはつかしとのたまへは

　いろ　くに身のうきほとのしらるゝはいかにそめける中のころもそとものの給はてぬに殿いり給へはわりなくてわたり給ぬおとこ君はたちとまりたる心ちもいと人わるくむねふたかりて我御かたにふし給ぬ御車三はかりにてしのひやかにいそきいてたまふけはひをきくもしつ心なけれは宮のおまへよりまいり

給へとあれとねたるやうにてうこきもし給はす涙のみとまらねはなけきあかしてしものいとしろきにいそきいて給ふうちはれたるまみも人にみえんかはつかしきに宮はためしまつはすへかめれは心やすき所にとていそきいて給なりけりみちのほと人やりならす心ほそく思ひつゝくるに空のけしきもいたうくもりてまたくらかりけり

しもこほりうたてむすへるあけくれのそらかきくらしふるなみたかな大殿にはことし五節たてまつり給なにはかりの御いそきならねとわらはへのさうそくなとちかうなりぬとていそきせさせ給ふひんかしの院にはまいりの夜の人〻のさうそくせさせ給ふ殿には大かたのことゝも中宮よりもわらはしもつかへのれうなとえならてたてまつれ給へりすきにしとし五節なととまれりしかさう

くしかりしつもりとりそへうへ人の心ちもつねよりもはなやかにおもふへかめるとしなれは所〳〵いとみていといみしくよろつをつくし給きこえあり按察大納言左衛門督うへの五節にはよしきよいまはあふみのかみにて左中弁なるなんたてまつりけるみなとゝめさせ給て宮つかへすへくおほせことことなるとしなれはむすめををの　くたてまつり給殿のまひめはこれみつのあそんのつのかみにて左京大夫かけたるか女かたちなといとをかしけなるきこえあるをめすからい事に思ひたれと大納言のほかはらのむすめをたてまつらるなるにあそんのいつきむすめいたしたてたらむなにのはちかあるへきとさいなめはわひておなしくは宮つかへやかてせさすへく思をきてたりまひならはしなとはさとにていとようしたてゝかしつきなとしたしふ身にそふへきはいみしうえりとゝのへてその日の夕つけてまいらせたり殿にも御かた　くのわらはしもつかへのすくれたるをと御らんしくらへえりいてらるゝ心ちともはほと　くにつけていとおもたゝしけなり御前にめして御らんせむうちならしに御まへをわたらせてとさため給すつへうもあらすとり　くなるわらはへのやうたいかたちをおほしわつらひていま一ところのれうをこれよりたてまつらはやなとわらひ給たゝもてなしようにによりてそえらひにいりける大かくの君むねのみふたかりてものなともみいれられすくむしいたくてふみもよまてなかめふし給へるを心もやなくさむとたちいてゝまきれありき給さまかたちはめてたくをかしけにてしつやかになまめい給へれはわかき女房なとはいとをかしとみたてまつるうへの御かたにはみすのまへにたにものちかうもゝてなし給はすわか御心ならひいかにおほすにかありけむうと　くしけれはこたちなともけとをきをけふはものゝまきれにいりたち給へるなめりまい姫かしつきおろしてつまとのまにひやうふなとたてゝ

かりそめのしつらひなるにやをらよりてのそき給へはなやましけにてそひふしたりたゝかの人の御ほとゝみえていますこしそひやかにやうたいなとのことさらひをかしき所はまさりてさへみゆくらけれはこまかにはみえねとほとのいとよくおもひいてらるゝさまに心うつるとはなけれとたゝにもあらてきぬのすそをひきならい給になに心もなくあやしとおもふに

あめにますとよをかひめのみや人もわか心さすしめをわするなおとめこか

袖ふる山のみつかきのとのたまふそうちつけなりけるわかうをかしきこゑなれとたれともえ思ひたとられすなまむつかしきにけさうしそふとてさはきつるうしろみともちかうよりて人さはかしうなれはいとくちをしうてたちさり給ぬあさきの心やましけれはうちへまいる事もせすものうかり給を五節にことつけてなをしなとさまかはれる色ゆるされてまいり給きひはにきよらなるものからまたきにおよすけてされありき給みかとよりはしめたてまつりておほしたるさまなへてならす世にめつらしき御おほえなり五節のまいるきしきはいつれともなく心ゝににくし給へるをまひゝめのかたち大殿と大納言殿とはすくれたりとめてのゝしるけにいとをかしけなれとこゝしううつくしけなることはなを大殿のにはえおよふましかりけりものきよけにいまめきてそのものともみゆましうしたてたるやうたいなとのありかたうをかしけなるをかうほめらるゝなめりれいのまゐひめともよりはみなすこしおとなひつゝけに心ことなるとしなり殿まいり給て御らんするにむかし御めとまり給しおとめのすかたをほしいつたつの日のくれつかたつかはす御ふみのうち思ひやるへし

おとめ子も神さひぬらしあまつ袖ふるき世のともよはひへぬれはとし月のつもりをかそへてうちおほしけるまゝのあはれをえしのひたまはぬはかりのをかしうおほゆるもはかなしや

かけていへはけふのことゝそおもほゆる日影のしもの袖にとけしもあをすりのかみよくとりあへてまきらはしかいたるこすみうすすみさうかちにうちませみたれたるも人のほとにつけてはをかしと御らんす冠者の君も人のめとまるにつけても人しれすおもひありき給へとあたりちかくたによせすいとけゝしうもてなしたれはものつゝましきほとの心にはなけかしうてやみぬかたちはしもいと心につきてつらき人のなくさめにもみるわさしてんやとおもふやかてみなとめさせ給て宮つかへすへき御けしきありけれとこのたひはまかてさせてあふみのはからさきのはらへつのかみはなにはといとみてまかてぬ大納言もことさらにまいらすへきよしそうせさせ給左衛門督その人ならぬをたてまつりてとか

めありけれとそれもとゝめさせ給つのかみは内侍のすけあきたるにとまうさせたれはさもやいたはらましと大殿もおほいたるをかの人はきゝ給ていとくちおしとおもふわかとしのほとくらゐなとかくものけなからすはこひみてまし物をおもふ心ありとたにしられてやみなん事とわさとのことにはあらねとうちそへてなみたくまるゝおり　くありせうとのわらは殿上するつねにこの君にまいりつかうまつるをれいよりもなつかしうかたらひ給て五節はいつかうちへまいるととひ給ことしとこそはきゝ侍れときこゆかほのいとよかりしかはすゝろにこそ恋しけれましかつねにみるらむもうらやましきをまたみせてんやとの給へはいかてかさは侍らん心にまかせてもえみ侍らすをのこはらからとてちかくもよせ侍らねはましていかてかきんたちには御らんせさせんときこゆさらはふみをたにとてたまへりさき　くかやうの事はいふものをとくるしけれとせめてたまへはいとおしうてもていぬとしのほとよりはされてやありけんをかしとみけりみとりのうすやうのこのましきかさねなるにてはまたいとわかけれとおいさきみえていとをかしけに

日影にもしるかりけめやをとめこかあまのは袖にかけし心はふたりみる程にちゝぬしふとよりきたりおそろしうあきれてえひきかくさすなそのふみそとてとるにおもてあかみてゐたりよからぬわさしけりとにくめはせうとにけていくをよひよせてたかそとゝへはとのゝくわさの君のしか　くのたまうて給へるといへはなこりなくうちえみていかにうつくしき君の御され心なりきんちらはおなしとしなれといふかひなくはかなかめりかしなとほめてはゝ君にもみすこの君たちのすこし人かすにおほしぬへからましかは宮つかへよりはたてまつりてまし殿の御心をきてみるにみそめ給てん人を御心とはわすれ給ふましきとこそいとたのもしけれあかしの入道のためしにやならましなといへとみないそきたちにたりかの人はふみをたにえやり給はすたちまさるかたのことし心にかゝりてほとふるまゝにわりなくこひしきおもかけにまたあひみてやと思ふよりほかのことなし宮の御もとへあいなく心うくてまいり給はすおはせしかたとしころあそひなれし所のみ思ひいてらるゝ事まされはさとさへうくおほえ給つゝまたこもりゐ給へり殿はこのにしのたいにそきこえあつけたてまつり給ける大宮の御世ののこりすくなけなるをおはせすなりなんのちもかくおさなきほとよりみならしてうしろみおほせときこへ給へはたゝの給まゝの御心にてなつかしうあはれに思ひあつかひたてまつり給ほのかになとみたてまつるにもかたちのまほならすもおはしけるかなかゝる人をも人はおもひすて給はさりけりなと我あ

なかちにつらき人の御かたちを心にかけて恋しとおもふもあちきなしや心はへのかやうにやはらかならむ人をこそあひおもはめと思ふまたむかひてみるかひなからんもいとをしけなりかくてとしへ給にけれと殿のさやうなる御かたち御心とみ給うてはまゆふはかりのへたてさしかくしつゝなにくれともてなしまきらはし給めるもむへなりけりと思心のうちそはつかしかりける大宮のかたちことにおはしませとまたいときよらにおはしこゝにもかしこにも人はかたちよきものとのみめなれ給へるをもとよりすくれさりける御かたちのやゝさたすきたる心地してやせやせに御くしすくなゝるなとかかくそしらはしきなりけりとしのくれにはむ月の御さうそくなと宮はたゝこの君ひと所の御ことをましることなういそいたまふあまたくたりいときよらにしたてたまへるをみるもものうくのみおほゆれはついたちなとにはかならすしも内へまいるましう思ひ給ふるになにゝかくいそかせ給らんときこえ給へはなとてかさもあらんおひくつをれたらむ人のやうにもの給かなとの給へはおいねとくつをれたる心ちそするやとひとりこちてうちなみたくみてゐ給へりかのことを思ならんといと心くるしうて宮もうちひそみ給ぬおとこはくちおしきゝはのひとたに心をたかうこそつかうなれあまりしめやかにかくなものし給そなにとかゝうなかめかちに思ひいれ給へきゆゝしうとの給もなにかは六位なと人のあなつり侍めれはしはしのことゝはおもふたまふれと内へまいるも物うくてなんこおとゝおはしまさましかはたはふれにても人にはあなつられ侍らさらましものへたてぬおやにおはすれといとけゝしうさしはなちておほいたれはおはしますあたりにたやすくもまいりなれ侍らすひんかしの院にてのみなんおまへちかく侍るたいの御かたこそあはれにものし給へおやいまひと所おはしまさましかはなに事を思ひ侍らましとてなみたのおつるをまきらはい給へるけしきいみしうあはれなるに宮はいとゝほろ〳〵となき給てはゝにもをくるゝ人はほと〳〵につけてさのみこそあはれなれとをのつからすくせ〳〵に人となりたちぬれはをろかにおもふもなきわさなるを思ひいれぬさまにてものし給へこおとゝのいましはしたにものし給へかしかきりなきかけにはおなしことゝたのみきこゆれと思ふにかなはぬことのおほかるかな内のおとゝの心はへもなへての人にはあらすと世人もめていふなれとむかしにかはることのみまさりゆくにいのちなかさもうらめしきにおいさきとをき人さへかくいさゝかにても世を思ひしめり給へれはいとなむよろつうらめしきよなるとてなきをはしますついたちにも大殿は御ありきしなけれはのとやかにておはしますよしふさのおとゝときこえけるいにしへのれいになすらへてあ

をむまひきせちゑの日内のきしきをうつしてむかしのためしよりもことそへて
いつかしき御ありさまなりきさらきの廿日あまりすさく院にきやうかうあり花
さかりはまたしき程なれとやよひは故宮の御忌月なりとくひらけたるさくらの
いろもいとおもしろけれは院にも御よういことにつくろひみかゝせ給ひ行幸に
つかうまつり給上達部みこたちよりはしめ心つかひし給へり人〳〵みなあを色に
さくらかさねをき給みかとはあかいろの御そたてまつれりめしありておほきお
とゝまいり給おなしあかいろをき給へれはいよ　くひとつものとかゝやきてみ
えまかはせ給人〳〵のさうそくようういつねにことなり院もいときよらにねひまさ
らせ給て御さまのようういなまめきたるかたにすゝませ給へりけふはわさとの文
人もめさすたゝそのさえかしこしときこえたるかく生十人をめす式部のつかさ
の心みの題をなすらへて御たい給ふ大殿のたらう君の心み給へきなめりおくた
かきものともはものもおほえすつなかぬふねにのりて池にはなれいてゝいとす
へなけなり日やう　くくたりてかくの船ともこきまひて調子ともそうする程の
山かせのひゝきおもしろくふきあはせたるに火さの君はかうくるしき道ならて
もましらひあそひぬへきものをと世中うらめしうおほえ給けり春鶯囀まふほと
にむかしの花宴のほとおほしいてゝ院のみかとも又さはかりの事みてんやとの
給はするにつけてそのよの事あはれにおほしつゝけらるまひはつるほとにおと
ゝ院に御かはらけまいり給
うくひすのさえつるこゑはむかしにてむつれし花のかけそかはれる院のう
へ
こゝのへをかすみへたつるすみかにも春とつけくる鶯のこゑ帥の宮ときこ
えしいまは兵部卿にていまのうへに御かはらけまいり給
いにしへをふきつたへたるふえ竹にさえつる鳥のねさへかはらぬあさやか
にそうしなし給へるようういことにめてたしとらせ給て
鶯のむかしをこひてさえつるはこつたふ花の色やあせたるとの給はする御
ありさまこよなくゆへ　くしくおはしますこれは御わたくしさまにうち　く
のことなれはあまたにもなかれすやなりにけんまたかきおとしてけるにやあらん
楽所とをくておほつかなけれは御前に御ことゝもめす兵部卿の宮ひは内のおと
ゝ和琴さうの御こと院の御まへにまいりて琴はれいのおほきおとゝに給はりた
まふせめきこえ給さるいみしき上手のすくれたる御てつかひとものつくし給へ
るねはたとへんかたなしさうかの殿上人あまたさふらふあなたうとあそひてつ
きにさくら人月おほろにさしいてゝをかしきほとになかしまのはたりにこゝか

しこかゝり火ともともしておほみあそひはやみぬ夜ふけぬれとかゝるつゐてに
おほきさいの宮おははしますかたをよきてとふらひきこえさせ給はさらんもなさ
けなけれはかへさにわたらせ給おととともろともにさふらひ給きさきまちよろこ
ひ給て御たいめんありいといたうさたすき給にける御けはひにもこ宮を思ひい
てきこえ給てかくなかくおははしますたくひもおははしけるものをとくちおしうお
もほすいまはかくふりぬるよはひによろつの事わすられ侍にけるをいとかたし
けなくわたりおはしまいたるになんさらにむかしの御代のこと思ひいてられ侍
とうちなき給さるへき御かけともにをくれ侍てのちはるのけちめも思ひたまへ
わかれぬをけふなむなくさめ侍ぬる又　くもときこえ給おとゝもさるへきさま
にきこえてことさらにさふらひてなんときこえ給のとやかならてかへらせ給ひ
ゝきにもきさきは猶むねうちさはきていかにおほしいつらむ世をたもち給へき
御すくせはけたれぬものにこそといにしへをくひおほす内侍のかんの君ものと
やかにおほしいつるにあはれなる事おほかりいまもさるへきおり風のつてにも
ほのめききこえ給ことたえさるへしきさきはおほやけにそうせさせ給ことある
時ゝそ御たうはりのつかさかうふりなにくれの事にふれつゝ御心にかなはぬと
きそいのちなかくてかゝる世のするをみることゝとりかへさまほしうよろつお
ほしむつかりけるおひもておはするまゝにさかなさもまさりて院もくらへくる
しうたとへかたくそおもひきこえ給けるかくて大かくの君その日のふみうつく
しうつくり給て進士になり給ぬ年つもれるかしこきものともをえらはせ給しか
ときうたいの人わつかに三人なんありける秋のつかさめしにかうふりえて侍従
になり給ぬかの人の御ことわするゝ世なけれとおとゝのせちにまもりきこえ給
もつらけれはわりなくてなともたいめんし給はす御せうそこはかりさりぬへき
たよりにきこえ給てかたみに心くるしき御なかなり大殿しつかなる御すまひを
おなしくはひろく見所ありてこゝかしこにておほつかなき山さと人なとをもつ
とへすませんの御心にて六条京極のわたりに中宮の御ふるき宮のほとりをよま
ちをこめてつくらせ給式部卿宮あけんとしそ五十になり給ける御賀の事たいの
うへおほしまうくるにおとゝもけにすくしかたきことゝもなりとおほしてさや
うの御いそきもおなしくめつらしからん御いへゐにてといそかせ給年かへりて
ましてこの御いそきのこと御としみのことかく人まひ人のさためなとを御心に
いれていとなみ給経仏法事の日のさうそくろくなとをなんうへはいそかせ給け
るひんかしの院にわけてし給こととゝもあり御なからひましていとみやひかにき
こえかはしてなんすくし給ける世中ひゝきゆすれる御いそきなるを式部卿宮に

もきこしめしてとしころ世中にはあまねき御心なれとこのわたりをはあやにくになさけなくことにふれてはしたなめ宮人をも御よういなくうれはしきことのみおほかるにつらしと思をき給事こそはありけめといとをしくもからくもおほしけるをかくあまたかゝつらひ給へる人〻おほかるなかにとりわきたる御思ひすくれて世に心にくゝめてたきことに思ひかしつかれ給へる御すくせをそ我いへまてはにほひこねとめいほくにおほすに又かくこの世にあまるまてひゝかしいとなみ給はおほえぬよはひのすゑのさかへにもあるへきかなとよろこひ給を北のかたは心ゆかすものしとのみおほしたり女御ゝましらひのほとなとにもおとゝの御よういなきやうなるをいよ　くうらめしとおもひしみ給へるなるへし八月にそ六条院つくりはてゝわたり給ひつしさるのまちは中宮の御ふる宮なれはやかておはしますへしたつみは殿のおはすへきまちなりうしとらはひんかしの院にすみ給たいの御かたいぬゐのまちはあかしの御かたとおほしおきてさせ給へりもとありける池山をもひんなき所なるをはくつしかへて水のおもむき山のをきてをあらためてさま　くに御かた　くの御ねかいの心はへをつくらせ給へりみなみのひんかしは山たかく春の花の木かすをつくしてうへ池のさまおもしろくすくれておまへちかきせんさい五えうこうはいさくらふちやまふきいはつゝしなとやうの春のもてあそひをわさとはうへて秋のせんさいをはむら　くほのかにませたり中宮の御まちをはもとの山にもみちのいろこかるへきうへ木ともをそへていつみの水とをくすましやり水のをとまさるへきいはほたてくはへたきおとして秋の野をはるかにつくりたるそのころにあひてさかりにさきみたれたりさかの大ゐのわたりの野山むとくにけおされたる秋なりきたのひんかしはすゝしけなるいつみありてなつのかけによれりまへちかきせんさいくれたけした風すゝしかるへくこたかきもりのやうなる木ともこふかくおもしろくやまさとめきてうの花のかきねことさらにしわたしてむかしおほゆる花たちはなてしこさうひくたになとやうの花くさ　くをうへて春秋の木草そのなかにうちませたりひんかしおもてはわけてむまはのおとゝつくりらちゆいてさ月の御あそひところにて水のほとりにさうふうへしけらせてむかひにみまやして世になき上めともをとゝのへたてさせ給へりにしのまちはきたおもてつきわけてみくらまちなりへたてのかきに松の木しけくゆきをもてあそはんたよりによせたり冬のはしめのあさしもむすふへき菊のまかきわれはかほなるはゝそはらおさ　くなもしらぬみ山木とものこふかきなとをうつしうへたりひかんのころほひわたり給ひとたひにとさためさせ給しかとさはかしきやうなりとて中宮はすこ

しのへさせ給れいのおいらかにけしきはまぬ花ちるさとそゝの夜そひてうつろひ給はるの御しつらひはこのころにあはねといと心ことなり御くるま十五御前四ゐ五ゐかちにて六位殿上人なとはさるへきかきりをえらせ給へりこちたきほとにはあらす世のそしりもやとはふき給へれはなにこともおとろ　くしういかめしきことはなしいまひとかたの御けしきもおさ　くおとし給はてしゝうの君そひてそなたはもてかしつき給へはけにかうもあるへきことなりけりとみえたり女房のさうしまちともあて　くのこまけそおほかたのことよりもめてたかりける五六日すきて中宮まかてさせ給この御けしきはたさはいへといとゝころせし御さいはいのすくれたまへりけるをはさるものにて御ありさまの心にくゝおもりかにおはしませはよにおもく思はれ給へることすくれてなんおはしましけるこのまち　くのなかのへたてにはへいともらうなとをとかくゆきかよはしてけちかくをかしきあはひにしなし給へりなか月になれはもみちむら　く色つきて宮のおまへえもいはすおもしろし風うち吹たる夕くれに御はこのふたにいろいろの花もみちをこきませてこなたにたてまつらせ給へりおほきやかなるはらはのこきあこめしおんのおりものかさねてあかくちはのうすものゝかさみいといたうなれてらうわたとのゝそりはしをわたりてまいるうるはしきゝしきなれとわらはのをかしきをなんえおほしすてさりけるさる所にさふらひなれたれはもてなしありさまほかのにはにすこのましうをかし御せうそこには

　心から春まつそのはわかやとの紅葉を風のつてにたにみよわかき人ゝ御つかひもてはやすさまともをかし御返はこの御はこのふたにこけしきいはほなとの心はへして五ええうのえたに

　風にちる紅葉はかろし春の色をいはねの松にかけてこそみめこのいはねのまつもこまかにみれはえならぬつくりことゝもなりけりとりあへすおもひより給つるゆへ　くしさなとをおかしく御らんす御まへなる人　くもめてあへりおとゝこの紅葉の御せうそこいとねたけなめり春の花さかりにこの御いらへはきこえ給へこのころ紅葉をいひくたさむはたつたひめのおもはんこともあるをさししそきて花のかけにたちかくれてこそつよきことはいてこめときこえ給もいとわかやかにつきせぬ御ありさまのみところおほかるにいとゝ思やうなる御すまひにてきこえかよはし給大ゐの御かたはかうかた　くの御うつろひさたまりてかすならぬ人はいつとなくまきらはさむとおほして神無月になんわたり給ける御しつらひことのありさまをとらすしてわたしたてまつり給ひめ君の御ためをおほせは大かたのさほうもけちめこよなからすいともの　くしくもてなさせ給へり